

●主要行事

●学内イベント

●人事・組織

●諸報

国際交流活動

教育活動

研究活動

社会・地域との連携・交流活動

研究レポート

本学主催コンクール

●栄典・表彰

●クラブ活動

●施設・防災

●連載

「創立25周年江戸川学園物語」



学園祭 2 日目に野外ステージで行われたお笑いライブの様子



駒木憩いの広場の様子



3年ぶりの光景

11月2日(水)・3日(木)に江戸川学園おたかの森専門学校と合同の駒木祭が対面とオンラインのハイブリッドで開催されました。2日間とも晴天に恵まれ、来場者数は3000人を超えました。

学科・ゼミの教育研究活動の展示やクラブ・サークルの企画発表の一部を紹介



アイドル愛好会「愛センチメートル」



コピーダンス愛好会「BLACK ANGEL」



ダンス愛好会「DECK'S」



軽音楽部「JOICE」



弦楽同好会



駒木学習センター書道展示



駒木学習センター水彩スケッチ展示



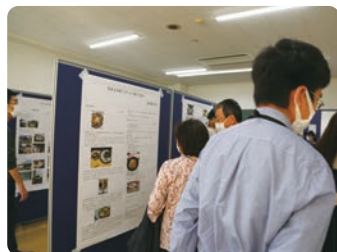
海外研修展示



学園祭実行委員会企画「緑日」



情報文化学科展示



鉄道愛好会展示



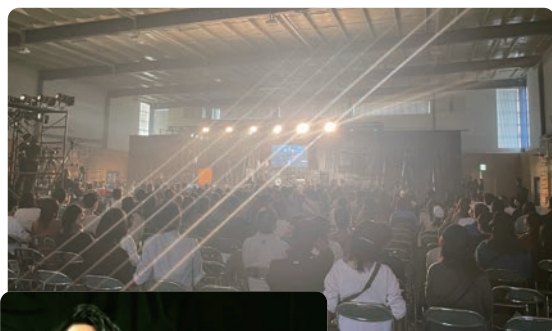
第11回こどもコミュニケーションフォーラム
人形劇団タップ公演

学園祭を終えて

今年度のテーマは「^{さいこう}彩虹」です。7色の虹は様々な色が重なり合い彩られています。私たち実行委員会も十人十色ですが定期的に会議を設け話し合いながら学園祭の成功を目指して尽力しました。飲食系の模擬店は実施できませんでしたが、3年ぶりに展示企画を対面で開催することができました。ご来場者には入場時に検温し腕にリストバンドを着用していただくなどの感染症対策を行い、無事終えることができました。実施にあたりご協力いただいた先生方、職員の方々に感謝しております。来年度もぜひご協力賜りますようお願い申し上げます。

学園祭実行委員会委員長 角田琉河





会場は大勢の来場者で埋め尽くされた



ファッションコーデ対決に先立ちトークライブを披露したお笑い芸人のミキ

江戸川ガールズアワード (EGA) は、社会学部経営社会学科の演習・実習の取り組みとして、音楽・ファッションビジネスコースの学生たちが作り上げる大型イベントです。イベントの中核となるのは「ネクステージ・オーディション」で、全国の高校生を対象にした軽音楽コンテスト。第4回となる今年度はバンド部門20組、ソロ部門1人から応募があり、厳正なる審査の結果、決勝出場者にはバンド部門5組（うち1組は新型コロナウイルス感染により欠場）が選ばれました（詳細は15ページに掲載）。

EGA イベントは、11月3日（木・祝）13時30分から、第二体育館を会場に対面とオンラインのハイブリッドで開催されました。第1部は2022ネクステージ・オーディション決勝ライブ、第2部は突発的犯行デビューライブ、第3部はファッションコーデ対決、第4部はグランプリ発表&授賞式の順で行われました。

決勝審査の様子

ゲスト審査員は音楽プロデューサーの割田康彦氏とヤマハミュージックジャパンの森山賢志氏。講評では「どのバンドも非常にレベルが高く、審査員泣かせのオーディションとなりました。慎重に議論を重ねた結果、優秀賞のほかに審査員特別賞を設けました」と話されました。



あいみるちゃんむし



酔ひどれ



綺凜



エレクトロキャバシティ



グランプリのエレクトロキャバシティに小口彦太学長から賞状を授与



審査員特別賞の酔ひどれに割田康彦氏から賞状を授与

デビューライブの様子

2021 ネクステージアーティストの突発的犯行がデビューライブを行いました。ピアノロック・ガールズバンドで、メンバーはリーダーのKey./Vo. 笹和田美玲さんとDr./Cho. きょうこさん、Ba. ゆいりさんの3人（音楽プロデュース：割田康彦氏）。同学科の音楽ビジネスゼミ3年生がアーティストプロデュースを行い、この日『無垢になるまで』をデジタルリリースしました。



デビュー曲「無垢になるまで」を歌う突発的犯行

ファッションコーデ対決の様子

人気ブランドとのタイアップ企画としてファッションコーディネート対決「DISCOVER 80's」を行いました。お笑い芸人の「ミキ」を特別審査員に迎え、音楽・ファッションビジネスコースの2年ゼミ生3チームがそれぞれ「SILAS」「MILKFED.」「BEAMS DOT」の商品を使ったコーデで対決。優勝は「BEAMS DOT」の商品でモノトーンコーデを披露したCチームが選ばれました。



ミキから優勝チームに賞状が贈呈された



9月卒業生は、社会学部人間心理学科3名、現代社会学科3名、経営社会学科12名、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科1名、情報文化学科6名、計名25名となりました。2022年9月28日（水）に映像ホールにて学位記が授与されました。

事務職員内定式

江戸川大学職員として2023年4月から採用となる新規採用者内定式を10月3日（月）に実施しました。内定者は2名です。理事長室にて木内英仁理事長から内定通知を渡し、小口彦太学長が期待の言葉を述べました。内定式後は、先輩になる事務職員との懇談会を行いました。



（左から）杉山保憲大学事務局長、木内英仁理事長、内定者・松山和樹さん、内定者・岡本大さん、小口彦太学長、広岡勲法人事務局長、桑田知明法人事務局総務部長

退職者

教員退職者（2022年10月31日付け）

社会学部経営社会学科准教授 大塚寛樹

卒業生を囲む就職相談会

キャリアセンターでは、就職活動支援として『就職ガイダンス』を行っています。12月7日（水）の第6回ガイダンスでは、『卒業生を囲む就職相談会』を開催しました。

本イベントは、社会で活躍する江戸川大学OB・OGが母校に足を運び、就職活動を控える後輩学生のために各業界・企業の業務内容や採用情報の説明、選考に向けたアドバイスをしてくれる会です。今回は、製造業、情報通信業、卸・小売業、サービス業、公務等で活躍する7名のOB・OGにご協力いただきました。学生は興味のある企業のブースを訪ね、先輩方の説明を聞いて、熱心に質問をしていました。



対面とオンラインのハイブリッドで行われた

2023年度組織変更

2023年度入試から入学定員は、経営社会学科が120人から130人、こどもコミュニケーション学科が60人から50人※に変更されました。 ※認可申請中

設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学定員	収容定員	変更内容
社会学部			
人間心理学科	110	440	
現代社会学科	80	320	
経営社会学科	130	520	定員変更(10)
メディアコミュニケーション学部			
マス・コミュニケーション学科	100	400	
情報文化学科	80	320	
こどもコミュニケーション学科	50	200	定員変更(△10)
計	550	2200	

新型コロナウイルス感染症対策における2022年7月1日(金)からの活動方針

- 授業の実施方法について
- 各種の感染防止対策を実施した上で、対面授業を中心とする。
- 学外実習等の参加について
- 実習担当者が実習先の感染防止対策と参加者の健康状況を把握することを条件に実施を認める。

＜学生のインターンシップ参加について＞

- 参加する学生自身が感染防止対策を徹底すると同時に、インターンシップ受け入れ側の感染防止対策が充分になされていることを確認することを条件に参加を認める。

＜海外渡航について＞

- 海外渡航をする場合（海外研修を除く）は、「外務省海外安全ホームページ」の「感染症危険情報」「危険情報」「出入国情報」を必ず確認すること。「感染症危険情報」レベル1以下、「危険情報」レベル1以下の国・地域を推奨。

＜ゼミ・実習・課外活動について＞

- 「3密」を防ぐためにどのような感染防止対策をとるか事前に活動申請書類を学生課に提出してもらう。また、万が一感染事例があった際に、濃厚接触者を特定することができるよう、いつ誰が活動しているかについて常に把握できる状態にした上で活動を認める。

● 実習・合宿については参加者の健康状況を把握することを条件として、申請時に感染防止対策を添付したものについて実施を認める。

- 熱中症対策として、練習時はマスク着用を不要とするが、練習時以外はマスク着用を徹底する。

＜アルバイトについて＞

- 感染症予防の基本を励行することとはもちろん、マスクやうがい、手洗いなど手指消毒を実施し、風邪のような症状や発熱、強いだるさ等、少しでも体調が悪い場合はアルバイトには行かず自宅で体調を整えること。

邪のような症状や発熱、強いだるさ等、少しでも体調が悪い場合はアルバイトには行かず自宅で体調を整えること。

- アルバイトを始める際は、飲食店やコンビニなど対面型のアルバイトについては感染防止対策を十分にとっている店舗を選択し、「3密」となるようなアルバイトには従事しないこと。

＜図書館について＞

- 学生・教職員及び近隣在住の高校生、東葛地区図書館コンソーシアム加盟大学の利用者については利用を認める（座席制限等あり）。※利用方法等の詳細は図書館ウェブページに提示

＜学術情報課窓口およびコンピュータヘルプデスクについて＞

- 授業の実施に必要なトラブルの相談およびPC付属品の受け取りなどについては、学生・教職員の利用を認める。

＜公開講座について＞

- 少人数の講座から開始する。
- 教室等の外部への貸出について
- 必要な感染症対策が実施されることを条件に貸出を認める。

駒木キャンパス入構時のお願い

「2022年10月20日更新」

■入構をお断りする方

- 発熱（37.5℃以上）、咳、強いだるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸

困難）などの風邪症状や味覚・嗅覚障害をお持ちの方。

＜マスクの着用について＞

【屋外】季節を問わず、マスク着用は原則不要です。

※人との距離（目安2m）が保てず、会話をする場合は着用をお願いします。

【屋内】人との距離（目安2m）が確保でき、会話をほとんど行わない場合をのぞき、マスクの着用をお願いします。

▽場面に応じた適切なマスクの着脱をお願いします。

▽引き続き、手洗い、「密」の回避等の基本的な感染対策は維持してください。

※その他の地域や施設の状況に応じて講じられている対策がある場合は、それを踏まえた対応をお願いします。



中庭のパンパスグラス（10月31日撮影）

国際交流活動

海外研修を3年ぶりに実施

3年ぶりとなる海外研修の実施に向けて、8月24日(水)に映像ホールで結団式を行いました。学長からの激励後、参加学生を代表して情報文化学科4年生の有村忠頼さんが「異文化交流、異文化理解、語学力の向上に努め、本学の学生としての自覚と誇りを持ち、研修に臨みます」と宣誓をしました。



有村忠頼さんによる宣誓

「異文化理解研修」

ニュージーランドでの異文化理解研修は2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症の影響で中断していましたが、3年ぶりに実施しました。今年度の参加学生は16名で、引率教員は国際交流センター長の新井正彦教授。8月30日(火)から9月13日(火)までマッセイ大学アルバニー校で英語を学び、ホームステイをしながら約2週間を過ごしました。

「語学研修(オセアニア)」

オーストラリアでの語学研修は2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症の影響で中断していましたが、3年ぶりに実施しました。今年度の参加学生は14名で、引率は国際室の山田博之主任。9月3日(土)から10月2日(日)までグリフィス大学ゴールドコースト校で英語を学び、ホームステイをしながら4週間を過ごしました。



マッセイ大学アルバニー校にて



ボンド大学にて

「語学研修(欧米)」

2022年度語学研修(欧米)は、アメリカでのプログラムとして初めてハワイで実施しました。参加学生は7名で、引率教員は情報文化学科の水口小百合講師でした。8月28日(日)から9月18日(日)までハワイ大学マノア校で英語を学び、ホームステイをしながら3週間を過ごしました。



ハワイ大学マノア校にて

「留学生バスツアー」を3年ぶりに実施

留学生の勉学や日常生活をサポートする国際交流センター主催の『留学生バスツアー』が11月5日(土)に実施され、留学生22名、教職員9名が茨城県笠間市・大洗町を訪れました。外国人留学生在が

交流を深めながら日本文化に親しむことを目的に、毎年の恒例行事となっていたバスツアーですが、コロナ禍の影響で実に3年ぶりの実施となりました。

午前は、笠間焼の窯元「製陶ふくだ」にて手びねり陶芸を体験。先生の指導を受けながら、焼きものの用の土を指先で伸ばしながら成形していきます。平皿、小物入れ、マグカップ、花瓶など、個性溢れる作品が次々と生み出されました。午後は、関東最大規模の「アクアワールド茨城県大洗水族館」へ。迫力ある「出会いの海の大水槽」、幻想的な「クラゲ大水槽」、アクアワールドのシンボルとなっているサメやマンボウなど、見所がいっぱいでした。



アクアワールド茨城県大洗水族館にて

柏駅「駅からハイキング」に参加

崎本武志ゼミは、JR東日本の柏駅と共同で、JR東日本が展開しているウォークラリーイベント『駅からハイキング』に参加しています。4度目となる今回は、11月10日（木）から16日（水）まで開催され、ゼミ生はハイキングに参加する一般市民の方々の受付を行いました。

ゼミ生はハイキングコースも立案。「江戸末期の歴史探索と緑豊かな自然に触れあおう」をテーマに、柏駅から柏の葉キャンパス駅までを歩くコースを駅職員の方々と共同で企画しました。築165年を誇る国指定重要文化財の旧吉田家住宅や、色づく紅葉が美しい大洞院など、柏の歴史盛りだくさんのコースとなっており、多くの人に参加いただきました。



柏駅コンコースで受付を担当するゼミ生たち

クリーンボランティア

『まちをきれいに志隊』に参加

現代社会科学科の佐藤秀樹講師の専門ゼミと現代社会演習Ⅱ・実習Ⅱの授業の中で、学生がキャンパスのある千葉県流山市のクリーンボランティア『まちをきれいに志隊』として、昨年12月に江戸川大学周辺の清掃活動を行いました。清掃道具や『まちをきれいに志隊』のタスキ等は市役所からお借りしました。



大学北門周辺を清掃する学生たち

『ながれやまスポーツフェスタ』に参加

現代社会科学科の学生が、野上玲子講師が担当した「現代社会・フィールド研修」の授業で、12月10日（日）に行われた「ながれやまスポーツフェスタ2022」に参加

ランティア員として参加しました。

ラグビー講習会やチャダンス講習会、親子で楽しめるチャレンジスポーツスタンプラリー（8種目）のほか、千葉県主催の「パラスポーツフェスタとうかつ」も同時開催され、約450人の市民が集まりました。学生たちは、流山市のスポーツ振興に直接関わり、公共スポーツの重要性について学ぶ貴重な体験をすることができました。



キッコーマンアリーナにて

江戸川大学イメージCMを制作

マス・コミュニケーション学科の演習・実習Ⅰ「CM制作」(担当：小久保利己教授)では、学生が3チームに分かれそれぞれ『君の可能性は、無限大』『心晴れ』『教えて！ねこ館長』の3作品のイメー

ジCMを完成させました。各作品とも60秒、30秒、15秒の3つのバージョンを公式YouTubeチャンネルで公開しています。

ショートフィルム

『シュールカツ』を制作

マス・コミュニケーション学科の小久保利己教授の専門ゼミでは、『シュールカツ！』と題した作品を制作しました。1、2年次は新型コロナウイルス感染症の影響でキャンパスに通うことができなかった3年生が、キャンパスに通信し始めると同時に直面した就職活動を題材にしています。公式YouTubeチャンネルで公開しています。

ドキュメンタリー作品を制作

マス・コミュニケーション学科の森川俊生教授の専門ゼミでは、『詐欺取材班』と『花火取材班』の2グループに分かれ、それぞれ『暗影からのささやき』多様化する詐欺その背景に潜む巧妙な手口とは』『玉響の煌めき』その一瞬に想いを込めて』と題したドキュメンタリー作品を完成させ、『東京ビデオフェスティバル2022』に出品しました。公式YouTubeチャンネルで公開しています。

記者体験プログラムに参加

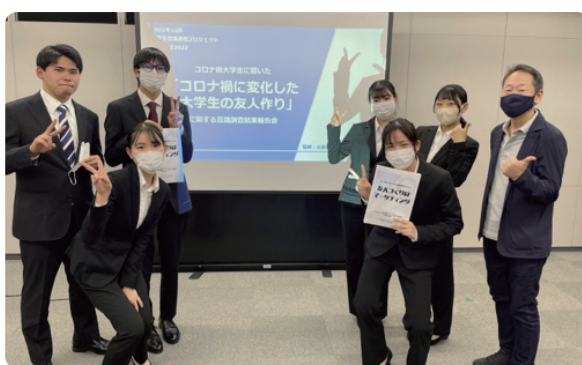
マス・コミュニケーション学科の神田洋教授の専門ゼミが、8月8日(月)から14日(日)に駒沢オリンピック公園硬式野球場などで開催された全日本学童軟式野球マクドナルド・トーナメントで記者体験プログラムに参加しました。

マクドナルド・トーナメントは「小学生の甲子園」とも呼ばれ、全国約1万1千チームが参加。各都道府県代表が日本一を競う学童野球大会でゼミ生が取材した執筆記事や撮影写真は、情報サイトOVO(オーヴォ)に掲載され、YAHOO! JAPAN ニュースなど多くのネットメディアにも転載されました。

大学生の意識調査プロジェクト FUTURE 2022 に参画

マス・コミュニケーション学科の井上一郎教授の専門ゼミが、公益社団法人東京広告協会主催の「大学生の意識調査プロジェクト FUTURE 2022」に参画しました。本プロジェクトは、調査の企画・実施・分析など一連の作業を全て大学生が行うもので、博報堂の社員の方々からアドバイスをいただきながら約半年間をかけて作業し、報告書の作成に取り組んだものです。参画したのは、江戸川大

学、青山学院大学、駒澤大学、専修大学、千葉商科大学の各マーケティング・広告系のゼミに所属する大学生です。



井上ゼミ生と井上教授(右)

東京都ファシリテーター養成講座に参加

情報文化学科では、2017年度から東京都の依頼を受けて、グループワークを促進するためのファシリテーター(ボランティア)として、中高生にネット利用に関する助言を行うなど活発な活動を行っています。

今年度も東京都より担当者をお迎えし、学内でファシリテーター養成講座を実施。参加学生はネットに関する青少年の課題、講座の

進め方、活発な議論を促進する方法などについて学び、グループワークを行いました。最後は修了証をいただき、これからのファシリテーター活動への意欲を高めました。



講座の様子

タイの大学生と国際協働オンラインプロジェクト実施

情報文化学科・水口小百合講師の専門ゼミでは、今年度前期にタイの首都・バンコクにある国立シーナカリンウィロート大学日本語学科のバットオン・ピパタクル先生率いる3年生の学生たちと、国際協働オンラインプロジェクトを行いました。

「コロナ禍でも失われないもの」を大きなテーマとして設定し、5

つのグループに分かれた両大学の学生たちがそれぞれの小テーマを決め、ドキュメンタリー動画を共同制作しました。インタビュアーやアンケート作成、スクリプト作成、動画編集に及ぶ全ての工程を、学生たちが協働で行いました。



シーナカリンウィロート大学の学生(前列)と水口ゼミ生と水口講師(後列)

「ファイナンシャル・プランニング技能士」2級と3級に合格

経営社会学科の学生が国家資格であるファイナンシャル・プランニング技能士資格試験に合格しました。合格者は以下のとおりです。
2級合格…4年・浜口竜、3年・山本碧空

3級合格…4年・小田原駿、佐藤友希人、3年・古谷優成、森山雄太、山本碧空、和田溪(敬称略)

教育研究活動

PRプランナー資格を取得

マス・コミュニケーション学科の学生15名が、公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会主催のPRプランナー資格認定制度／検定試験（第29回…2021年2月3日～第32回…2022年8月実施）に合格し、PRプランナー資格を取得しました。合格者・資格取得者は以下のとおりです。

2次合格（准PRプランナー資格）…渡辺健三郎

1次合格（PRプランナー補資格）…青木風花、倉住杏果、小沼瑞穂、塩島美優、高橋彩華、武居楓、田島寿真、津田弥蔵、中村渚咲、野津めぐみ、藤井夏季、藤島鮎海、松山朋代、水野凜人（敬称略）



賞状を手にした合格者たちと杉山教授

「統計検定データサイエンス発展（DS発展）」に合格

メディアコミュニケーション学部情報文化学科3年の森裕樹さんが「統計検定データサイエンス発展（DS発展）」に合格しました。

「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」の事業の一環として無料受験の機会が提供されたため、情報文化学科では「統計検定DSエキスパート」対策講座を実施。森さんはこの講座に参加し、見事合格しました。



森裕樹さん



賞状を手にした合格者たち

研究活動

第10回情報教育研究会の開催

情報教育研究所が7月31日（日）、第10回情報教育研究会をオンラインで開催しました。高等学校の管理職・指導主事・教科「情報」担当の先生方に加え、教員を目指す大学生や大学院生等、全国各地から参加者が集まり、大盛況のうちに終了しました。

今回は「問題解決力を育成する情報科の授業をどう実現するか」をテーマにした講演のほか、第2部として、本学情報教育研究所のメンバーも編修・執筆に参加した『問題解決のためのデータサイエンス入門』のテキストをどのよう

第8回英語教育研究会の開催

情報文化学科が8月8日（月）、「英語学習における自律的な学習環境作り」というテーマで第8回英語教育研究会をオンラインで開催

催しました。近隣の高校や大学で英語教育に携わっている先生方だけでなく、全国からご参加いただき、大盛況のうちに終了しました。

今回は白鷗大学の関戸冬彦教授を招聘講師にお迎えし、ワークショップ形式で実施。マインドセットを用いた英語学習実践や、学生の創造性を刺激する読解と創作の授業実践をご教授いただきました。

私情協「第3回情報活用教育コンソーシアム」をオンライン開催

社会で求められる情報活用能力を育成するために、私立大学情報教育協会では「社会で求められる情報活用能力育成のガイドライン」を大学卒業時に全ての学生が修得しておくべき学士力として提案しています。

本ガイドラインについては、私情協の委託を受けた江戸川大学情報教育研究所が中心となって検討し、「情報活用教育コンソーシアム」の運営も行っています。11月11日（金）には「第3回情報交換会」をオンラインで開催。全国の私立大学教員が参加し、情報関連教員と専門科目担当教員の連携をテーマに実施し、江戸川大学のFDの取り組みを基に各大学の状況などについて活発な情報交換が行われました。

薊理津子准教授の論文が『心理学研究』に掲載

人間心理学科の薊理津子准教授による論文『新型コロナウイルス感染症予防行動と行動基準との関連性—羞恥を媒介した検討—』が、日本心理学会が発行する学術誌『心理学研究』（93巻5号）に掲載されました。

本論文は、第1回目の緊急事態宣言下における日本人の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）予防行動と行動基準（公共場面において配慮する他者の範囲の広さを意味する概念）および羞恥との関係性を検討しました。

石橋美香子講師らの共著論文が『Cognitive Development』に掲載

人間心理学科の石橋美香子講師らの共著論文「Individual differences in children's anthropomorphic tendencies to their special objects」が8月1日（月）、ヒトの発達、学習、記憶など実証的な心理学研究を扱う査読付き学術誌『Cognitive Development』（Elsevier）に掲載されました。本論文は4〜6歳の子どもの対象に、擬人化傾向（無生物のモノへの心的状態や知覚能力の付与）の個人差と、養育者の擬

人化傾向との関連を明らかにした内容となっています。

また、共著論文「Observing effortful adults enhances not perseverative but sustained attention in infants aged 12 months」も9月28日（水）、同誌に掲載されました。本論文は、石橋講師と共同研究者である東京大学発達保育実践政策学センター特任助教の新屋裕太博士が「他者の粘り強さの観察が乳児の注意に与える影響」について調べた内容となっています。

佐藤秀樹講師の活動報告が『JEEF』に掲載

現代社会学科の佐藤秀樹講師は、公益社団法人日本環境教育フォーラムの客員上席研究員として、2020年2月から「バン格拉デシュ・シンドルボンにおける農畜林水産部門の6次産業化による零細農村生産者の生計向上プロジェクト」（資金源：外務省日本NGO連携無償資金協力）を、現地の行政、企業、学校やNGOと協働で進めています。佐藤講師の執筆した第3年次（事業期間：2022年3月〜2023年3月）の主な活動完了報告が、公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）のWebページに掲載されています。

室城隆之教授が国際学会の資格を取得

人間心理学科の室城隆之教授が、国際交流分析協会（ITAA：International Transactional Analysis Association）および心理療法分野の教授会員（TSTA：Teaching and Supervising Transactional Analyst）の資格を取得しました。

日本人での取得者がわずか5人（心理療法分野では2人）という本資格は、心理療法の1つである交流分析（TA：Transactional Analysis）の講義をしたり、スーパービジョンをしたりすることを国際的に認めるものです。

崎本武志教授が日本国際観光学会の会長に就任

現代社会学科の崎本武志教授が日本国際観光学会の会長に就任しました。日本国際観光学会は、産学共同で国際観光の学術研究を推進し、その基礎理論や事業手法の確立・普及を図り、国際観光の望ましい発展に貢献すること目的とした活動を行っています。

本学教員の著書

『心理学と睡眠…「睡眠研究」へのいざない』

江戸川大学睡眠研究所が編集・執筆した『心理学と睡眠…「睡眠研究」へのいざない』（金子書房）が12月9日（金）に出版されました。

本書は、同研究所の研究者が執筆・編集した、心理学の研究者を対象とした睡眠研究に関する書籍です。睡眠を認知心理学、臨床心理学、健康心理学、発達心理学、社会心理学、研究法などの切り口から迫った睡眠研究とその成果を豊富に解説しています。心理学者が研究に睡眠を取り入れ、新しい研究を進めるための二冊です。



社会・地域との連携・交流活動

『快眠研究と製品開発、社会実装』

睡眠研究所の福田二彦教授、浅岡章二教授、山本隆二教授が分担執筆をした『快眠研究と製品開発、社会実装―生体計測から睡眠教育、スリープテック、ウエルネス、地域創生まで―』（株式会社エヌ・ティー・エス）が6月23日（木）に出版されました。

本書は、睡眠研究から生活の質向上のための睡眠教育、快眠製品の開発までを体系的に詳解した書籍です。



『公認心理師 国家試験対策全科』

人間心理学科の中村真教授（専門分野…社会心理学）が分担執筆した書籍『公認心理師 国家試験対策全科』（株式会社金芳堂）が刊行されました。

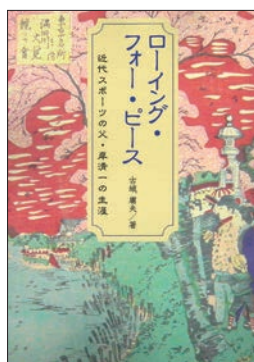
本書は、公認心理師の育成を含む心理学教育にかかわる現役の心理学者が執筆。公認心理師の全講義科目23科目が二冊にまとまっている国家試験受験者必携の書です。また、初学者が心理学を学ぶための

書としても役立つ内容となっており、中村教授は chapter2「心理学概論」を担当しています。



『ローイング・フォー・ピース』

経営社会学科の古城庸夫特任教授の著書『ローイング・フォー・ピース』が1月31日（火）に発売されました。本書は近代スポーツの父と呼ばれる岸清の生涯を描写しています。前著『「幻の東京オリンピック」の夢にかけた男』（春風社）で紹介しきれなかった若槻禮次郎との友情などの逸話を取り上げています。



生涯学習の推進

オープンカレッジ公開講座再開

6月から9月にかけて、前期公開講座「水彩スケッチを楽しむ」と「奏でる書道」の2講座を開講しました。2020年、21年はコロナの影響で全講座が中止となり、3年ぶりとなりましたが、すぐに作品制作にとりかかり、秋の駒木祭にも多数展示しました。

9月には、「仏像が来た道」・「ウクライナ戦争の深層と展望」・「パンデミックから人間、日本人を考える」など8講座を夏季公開講座として開講し、盛況に終わりました。10月からは後期公開講座として、継続の受講生のみを対象とした「水彩スケッチ」と「奏でる書道」の2講座を再開しています。

書道担当の村竹恵子講師は、「明るくきれいな教室に移動し、3年のプランクを感じさせずに仲間が集い、墨の香に包まれて書を書く姿を見られることがうれしい」と

水彩スケッチ担当の村竹清講師は「講座の皆さんのうれしそうに絵筆を運ぶ様子を見て、今後地域の方々が楽しく集い・学べる場の役割ができたら良いと思いました」と講座の再開を喜びました。受講生からも、「コロナ禍を超え、新しい教室でまた講座に参加することが出来、仲間と顔を合わせて学ぶことがうれしい」と再開を歓迎する声が聞かれました。



書道講座の様子

第10回サイエンスセミナー

江戸川大学情報教育研究所が7月29日（金）、第10回サイエンスセミナーをオンラインで開催しました。第1部は「小中高大での実践事例報告」、第2部は「高校生による研究発表」、第3部は「科学的な探究活動」対面だけでいいの？ オンラインだけでいいの？」をテーマにディスカッションが行われました。

全国各地から教育研究者や小・中・高校の先生方、科学や教育に

関心がある大学生・高校生の参加があり、大盛況のうちに終了しました。

第11回こどもコミュニケーションフォーラム

こどもコミュニケーション研究所が学園祭初日の11月2日（水）、第11回こどもコミュニケーションフォーラムとして、人形劇団タップによる公演「おおきなかぶ」を開催しました。約140名の子どもとその保護者、保育者の方々が来場し、パネルシアターやボードビル、人形劇を楽しみました。こどもコミュニケーション学科の学生がボランティアとして、会場の設営から来場者の案内等の運営に携わったほか、公演では同学科の猶原和子特任教授と学生が合奏した曲を使用しました。



人形劇団タップの皆さんと学生・先生方

流山市委託事業「子育て支援員研修」

江戸川大学では2016年度から、流山市より委託された事業「子育て支援員研修」を実施しています。こどもコミュニケーション研究所を中心として流山市と連携して、国の実施要綱に基づくカリキュラムで流山市民及び市内在勤・在学の方を対象に実施しています。2022年度は、地域型保育コース27名、地域子育て支援コース9名、一時預かり事業コース11名の計47名が参加。前期は7月から10月まで基本研修と専門研修が行われ、後期は8月から10月に各コース別に専門研修が行われました。



こどもコミュニケーション研究所の教員が講師を務める

ファミリー・サポート・センター主催基礎研修プログラム

こどもコミュニケーション研究所が、流山市ファミリー・サポート・センター主催のファミリー・サポート・センター登録会員必須の基礎研修プログラムの講師を担当しました。9月5日（月）に流山市生涯学習センターで行われた研修「児童虐待と社会的養護」は、我謝美左子准教授が担当し、12日（月）に行われた研修「保育の心、子どもの世話」は、浅川陽子特任教授と大塚紫乃准教授、「心の発達、障がいのある子どもの預かりについて」は村上涼准教授（同所長）が担当しました。

ト・センター主催のファミリー・サポート・センター登録会員必須の基礎研修プログラムの講師を担当しました。9月5日（月）に流山市生涯学習センターで行われた研修「児童虐待と社会的養護」は、我謝美左子准教授が担当し、12日（月）に行われた研修「保育の心、子どもの世話」は、浅川陽子特任教授と大塚紫乃准教授、「心の発達、障がいのある子どもの預かりについて」は村上涼准教授（同所長）が担当しました。



流山市生涯学習センターにて

「ICT活用」オンライン研修を実施

情報教育研究所の山口敏和准教授と小原裕二講師は、地方自治体の小・中学校教員を対象に、オンラインによるICT活用研修を7月から12月にかけて6回実施しました。参加教員からは「PC・タブレットを授業に活用するためのポイントやコツがわかった」「自分なりにICTを活用して授業改善をしてみたい」など、感謝の声が多数寄せられました。

した。参加教員からは「PC・タブレットを授業に活用するためのポイントやコツがわかった」「自分なりにICTを活用して授業改善をしてみたい」など、感謝の声が多数寄せられました。

情報モラル教員研修を全国で実施

情報文化学科の玉田和恵教授が、全国各地の教育委員会から依頼を受け、小・中学校教員を対象に「情報モラル問題解決力の育成」をテーマに研修を行っています。GIGAスクール構想により、全国の児童生徒一人ひとりにPC・タブレット等の配布が完了したため、学校現場ではデジタルシティズンシップとしての「情報モラル問題解決力の育成」が最重要課題となっています。2022年度は、対面形式では計8回、オンライン形式では計2回を実施しました。



千葉県総合教育センターにて

独立行政法人日本学術振興会助成研究

『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』（実社会対応プログラム）

「工学・脳科学をエビデンスとした社会的基盤概念と価値の創生」

（2018年10月1日から2022年3月31日まで）



博士（文学）
基礎・教養教育センター
岡田大助 准教授

本研究は、人が自律ロボットを使用しているときの主体の状態に注目し、実際に実験をして主体の状態を観察、考察することで、これまで常識的に理解されてきた近代の主体概念を越えた新たな主体概念を形成し、様々な社会問題の解決に資することを目指しています。

本研究は、脳科学、工学、法学、哲学の4つのグループから成ります。

私の所属する哲学グループは、脳科学や工学グループの自律ロボットを使った実験や考察から導き出される、自律ロボットを使用した際の人間の主体的状態についての考察を踏まえ、それが常識的な近代の主体概念とどのように異なるのかを検証し、合わせて、現在の社会が構成員の最小単位として前

提としている「主体」概念を理論的、文化的、歴史的側面から再検討し、この主体概念を修正することを試みました。

「日本思想」を専門とする私は、まず、日本人が歴史的文化的に継承してきた主体に近い概念に注目し、それを個人的側面（武士道の「卓爾とした独立」↓福沢諭吉の「独立」、共同的側面（和辻哲郎の「間柄」と主体論）、超越的側面（仏教の空・縁起・慈悲と親鸞の超越的主体論）の3者に腑分けし、それぞれの内実を明らかにしました。

次に、日本人における責任の主体の個人的・連続的な側面を明らかにするために、日本人の霊魂観を歴史的に検討することで、日本人は仏教の業報思想の影響のもと、生前死後を貫く霊魂

のようなものがあると観念し、それが、近世に脱仏教化した平田篤胤の霊魂観や柳田国男の霊魂観、さらには現代人の常識まで連続していることを明らかにしました。

他方、同じ仏教からの縁起説の影響の下、日本人は責任の主体を共同的・非独立的な側面を合わせ持つものと捉えており、主体の個人的側面と共同的側面とは絶えざる緊張関係にありました。このような、主体の両義的側面については、親鸞が主著『教行信証』で取り上げた『涅槃経』の阿闍世救済の物語と三願転入説のなかに、すでに両者の葛藤と一つの解決案が提示されていることを明らかにしました。

産学共同研究

「電動ベッドの動作による体性刺激が睡眠に及ぼす影響」に関する研究



江戸川大学睡眠研究所・パラマウントベッド株式会社共同研究

(2019年4月から継続中)

江戸川大学睡眠研究所は、パラマウントベッド睡眠研究所と共同研究を行っています。パラマウントベッド社の電動ベッドの背上げ機能を用いて、睡眠中に体性感覚刺激を提示して、それが、入眠期における心像体験（比較的単純な視覚心像や聴覚心像が入眠期に生じます）にどのような影響を与えるかについて、日中の仮眠を対象に行いました。

睡眠開始から20分経過したところで、約3秒をかけて電動ベッドの上半分を約10度の角度まで起こし、その後実験参加者を覚醒させました。その結果、背上げを行わなかった条件と比較して背上げを行った条件では、入眠時心像などの心理的体験は少なくなり、また、覚醒後の眠気も軽減されています。

した。さらに、背上げによって覚醒してしまった場合を除いても、入眠時心像の記憶は減少していたため、入眠時心像の減少は、背上げによって一部の実験対象者を覚醒させてしまったためだけではないと考えられました。これらの結果から、睡眠中に比較的マイルドな体性感覚刺激を与えることによって、実験参加者をスムーズに覚醒状態へと導くことができることが示されました。また、入眠時心像等の心理的体験を減少させることができることも示されました。特に後者の結果は、今後、悪夢の消去等についての技術開発においても重要な示唆を持つものであると考えられます。

この実験に続いて、夜間睡眠を対象として夢を見ている睡眠段階であるレム睡眠期に背上げを行い、その効果を見るところという実験を行いましたが、ちょうどCovid-19の流行と重なってしまい、データの収集が中々進みませんでした。現在、やっとレム睡眠期のデータの分析を行っているところです。また、これらの実験的研究と並行して、夢に関する調査研究も行っています。日中の仮眠を対象とした入眠時心像への背上げの影響を見た実験の結果は、Consciousness and Cognitionという国際誌に投稿して受理されています。この論文は以下のリンクから見ることが出来ます。

リンク先 URL

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1053810019304301>

ネクステージ・オーディション

「NEXTAGE ARTIST Audition feat. Girl Vocal」

ネクステージ・オーディションは、経営社会学科の音楽ビジネスコースの学生が主体となり、高校生を対象に行う軽音楽コンテストです。第3回までは関東圏の女子高校生を対象に「ガールズバンド&ソロオーディション（エドアワ・オーディション）」と銘打っていましたが、第4回から対象を全国・男女（ボーカルは女性）に広げ、「NEXTAGE ARTIST Audition feat. Girl Vocal(ネクステージ・オーディション)」と名称を変更しました。

「次世代を担い、世界に通用する可能性を持った高校生アーティスト」を選ぶべくプロが審査を行い、グランプリ受賞者には「NEXTAGE ARTIST」の称号が授与されます。また、希望する場合には音楽ビジネスの専門ゼミの3年次生による「デビュープログラム」のサポートを受けることができます。

今年度はバンド部門20組、ソロ部門1組の応募があり、応募された映像と書類をもとに第1次審査が行われ、10組が第2次審査に進出しました。第2次審査は10月2日（日）と3日（月）にエドスタ（Edogawa Live studio）でライブ審査が行われ、バンド部門から5組が決勝審査に進むことになりました。決勝審査の詳細は3ページをご覧ください。



エドスタで行われた第2次審査



控室となった映像ホールでは他のバンドのライブ審査の様子を見ることができる

「突発的犯行」デビュープログラム

「突発的犯行」は2021ネクステージ・オーディションで見事グランプリを受賞し、デビュープログラムに参加。リーダーの笹和田美玲さんが作詞・作曲した楽曲のレコーディングを8月19日（金）にエドスタで行いました。レコーディングに際しては、音楽プロデューサーの割田康彦氏が楽曲制作をサポートしたほか、ヤマハミュージックジャパンが楽器&機材のサポートをしました。学生らは機材の搬入からセッティング、アーティスト写真やミュージックビデオの撮影を行い、制作、宣伝をサポートしました。また、江戸川ガールズアワードでのデビューライブ実施や、デビュー曲「無垢になるまで」のデジタルリリースをサポートしました。



学生が制作したアーティスト写真



学生が制作したジャケット写真

江戸川大学簿記コンクール（経営社会学科主催）の中止

簿記コンクールは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年度から2022年度まで開催中止となりました。

栄典・表彰

外部表彰

学生記者クラブが「2022 CHIBA UNIVERSITY PRESS」で特別賞受賞

学生記者クラブが、千葉日報社主催「2022 CHIBA UNIVERSITY PRESS（CUP）」で特別賞を受賞しました。CUPは千葉県内の大学生が千葉日報社の学生記者として取材・紙面レイアウトなど新聞作りを体験する企画です。閉講式が12月14日（水）に行われ、優秀賞や特別賞などの発表がありました。

江戸川大学の学生記者は、全国でも屈指の人口増加数・増加率が続く流山市に着目し、待機児童対策を実行する市の担当課を取材したほか、市内の保育施設を取材し、『少子化社会 選ばれる自治体 子育て支援で存在感』をテーマに記事をまとめました。



（左から）神田洋教授、吉井瑞樹さん、小島大翔さん、星野愛奈さん、吉田妃麻里さん

外部表彰

岩井俊樹さんがドッジボールの全国大会で準優勝

経営社会学科3年の岩井俊樹さんが、10月2日(日)に福岡県北九州市で開催された2022 J.D.B.A. 全日本選手権(日本ドッジボール協会主催)に出場し、見事チームを準優勝に導きました。

岩井さんの所属するRED ☆ MAX は、千葉県松戸市を拠点に活動する競技ドッジボールチームです。7月に行われた関東ブロック・ファイターの部(16歳以上)で優勝し、全国大会への切符を掴むと、決勝戦では関西代表チーム相手にあと一歩及ばず惜しくも準優勝。それでも各地方大会を勝ち上がってきた32チーム中全国2位という素晴らしい成績を残しました。

尾花真梨子准教授「日本カウンセリング学会奨励賞」受賞

人間心理学科の尾花真梨子准教授が、令和3年度日本カウンセリング学会奨励賞を受賞しました。奨励賞は、日本におけるカウンセリング学に関する学術的研究と実践的活動を若い会員に奨励するために、優れた研究者ならびに実践者を表彰し、カウンセリング学の発展に寄与することを目的に贈られるものです。

受賞にあたっては、これまでの継続的な研究活動に加えて、当該学会の『カウンセリング研究』に掲載された「自閉スペクトラム症を抱える男子高校生の母親との心理面接過程」に関する事例研究が高く評価されました。

川瀬由高講師「国史館台湾文献館奨励出版文献書刊優等賞」受賞

現代社会学科・川瀬由高講師が分担執筆した『百年往返：走訪客家地區的日本學者』(中国語図書)が、2022年国史館台湾文献館奨励出版文献書刊の優等賞を受賞しました。

国史館は台湾の歴史・文化研究を推薦・収集しているセンターで、優等賞は昨年台湾で数多く出版された学術書のなかから8つしか選ばれていない名誉ある賞です。

本書は日本で活躍した台湾客家に関する研究者14名の業績を紹介する論文集です。川瀬講師は第9章「末成道男：祭祀圈論的更新與非群體論的起步」を寄稿。この章では中国研究の碩学である末成道男氏の台湾客家研究を、自身の南京でのフィールドワークの経験をもとに再解釈し、その非集団論としての特徴と今日的意義について議論しています。

佐藤秀樹講師「eco 検定アワード大賞」受賞

現代社会学科の佐藤秀樹講師が、東京商工会議所が主催する「eco 検定アワード2022」でエコピープル部門の大賞を受賞しました。

eco 検定を主催する東京商工会議所では「環境と経済を両立させた持続可能な社会」の推進に向けて、eco 検定アワードの受賞者が取り組む様々な活動を多くの方々に広く参考にしてもらうためにアワードを開催しています。

佐藤講師は高等教育機関における環境教育の促進、市民社会におけるSDGs普及啓発活動、バングラデシュ・シュンドルボン地域の零細農村生産者を対象とした農畜林水産物の6次産業化による生計向上事業の取り組みなどが高く評価されました。

令和4年度(第53回) 千葉県私学教育功労者表彰

千葉県私学教育振興財団は、千葉県の私学教育、学術又は文化の振興に関し、多年にわたる功績があった方々に対し、その功績を称え表彰を行っています。法人事務局から総務部総務課長の藤倉知康さん、総務部係長の千葉保子さん、大学事務局から学務部教務課長の平岡健次さんが表彰されました。

強化指定部などの活動報告

今年度から対面授業も再開し、学業と競技スポーツの両立を目指す本学の強化指定部4部の活動が本格化しました。そうしたなか、男子バスケットボール部は関東2部リーグを21勝1敗という圧倒的な強さで優勝し、1部リーグ昇格を決めました。第74回全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）にも出場し、中京大学（東海学連1位）に1点差で惜敗と大健闘しました。今後のさらなる活躍に期待がかかります。

「部員数が多い中、学生間で切磋琢磨しチーム力で勝ち取った結果だと思います。課外活動に励むために、日頃の学業を大切に取り組むことを継続し課外活動に生かす。創部以来の積み重ねだと思います。

2023年度の1部リーグ戦に向けては、チーム全員初めての挑戦となります。厳しい戦いになりますが、ベクトルを自分・自分たちに向け挑みたいと思います。引き続きの御支援、御声援よろしくお願い致します」

男子バスケットボール部長 青木拓郎准教授



第98回関東大学バスケットボール2部リーグの第18戦で大勝利、本学初の関東大学1部リーグ昇格が決定



第74回全日本大学バスケットボール選手権大会のオープニングゲーム（名古屋経済大学戦）で圧勝した男子バスケットボール部

2022年度公式戦活動報告

フットボールクラブ

千葉県大学サッカーリーグ1部 6位（9勝6敗3分け）
千葉県大学サッカーリーグ2部 1位（6勝1敗1分け）
関東大学サッカーIリーグ 5位（6勝6敗2分け）
千葉県社会人リーグ1部 11位（3勝6敗4分け）

女子バスケットボール部

関東大学女子バスケットボール2部A 通算7勝7敗 5位
皇后杯女子バスケットボール千葉県大会 優勝、
皇后杯1次ラウンド出場
サンブ アストゥ選手が2部得点王、リバウンド王受賞

男子バスケットボール部

関東大学バスケットボール2部リーグ 1位（21勝1敗）、
1部リーグ昇格決定
天皇杯バスケットボール千葉県大会 優勝、
天皇杯1次ラウンド出場
ジャキテェ ダオウダ選手がU-22日本学生選抜

女子バレーボール部

関東大学女子バレーボール2部リーグ 6位（4勝6敗）

男女バスケットボール部が流山市小学校ミニバスケットボール大会の運営に協力

男子バスケットボール部及び女子バスケットボール部が10月27日（木）と11月2日（水）、令和4年度第16回流山市小学校ミニバスケットボール大会の運営に協力しました。大会には流山市内の各校男女1チームずつ（小学校4・5・6年生の児童で構成）が出場。本学バスケ部員はボランティア活動の一環として審判を務めました。

男子バスケットボール部の岡戸幸輝さんは「私たちは来年度から関東1部リーグ所属という立場になって、多くの方々に応援されるようなチームになるため、小学生のような純粋な心を持って、また江戸川大学や流山市のボランティアに積極的に参加していきたいと強く感じました」、女子バスケットボール部の倉林菜穂さんは「大会運営に携わっていた方々への感謝の気持ちを改めて痛感しました。今後も地域の方々と交流する機会がありましたら、様々な形で積極的に参加していきたいです」と感想を述べました。



キックマンアリーナ（流山市民総合体育館）にて

施設設備

国際交流ラウンジをリニューアル

国際交流センターでは、留学生同士、また、留学生と日本人学生の交流を目的として、C棟1階に国際交流ラウンジを開設しています。ラウンジには、自習スペースや、留学生対象のお知らせ・日本語関連の図書コーナーがあり、自由に閲覧ができます。また、個別補習など、日本語学習のサポートも行っています。2022年度は、ホワイトボードと電源タップを新たに設置し、自習環境を整えました。日本語関連の図書も新たに追加されています。日本語学習や学生相互の交流にぜひご活用ください。



明るく気持ちのよいスペースにリニューアル



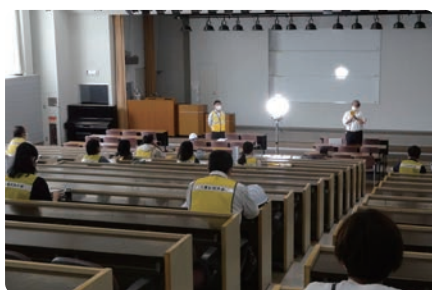
自習スペースには4つの個別ブースも設置

学食にキャッシュレス券売機を設置

学食設置の券売機はこれまで現金のみの使用に限られていましたが、今般新たにキャッシュレス券売機を1台追加設置する予定です。使用可能な媒体は、クレジットカードや電子マネー、QRコードとなっています。電子マネーは交通系IC、楽天Edy、nanaco、WAON、ID、QuickPayが、QRコード決済はPayPay、d払い、メルペイ、auPAY、A lipay、WeChatpay、銀聯QR、JkPayが対象となる予定です。4月からの稼働を目指しています。

防災訓練

2022年度防災訓練は9月16日(金)と22日(木)、教職員を対象に実施しました。B棟メモリアルホールに集合し、防災等危機管理委員会委員長の隈本邦彦教授から、総合訓練の想定、人員配置・役割分担の確認と訓練の流れについて説明がありました。今回の想定は大規模地震発生後にA棟2階の非常勤講師室から火災が発生するというもの。いったん各自研究室や席に戻り、緊急地震速報が発報するまで待機。発報後は、割り当てられた通報連絡班、避難誘導班、応急救護班、安全防護班、初期消火班のいずれかの一員として行動し、自分の役割を確認しました。



メモリアルホールで総合訓練の説明を受ける



負傷者を担架で救護する応急救護班



続々と入る報告をホワイトボードにまとめる通報連絡班



緊急地震速報発報後、本部となるN棟1階に集合する教職員

2021年度決算報告

学校法人江戸川学園の2021年度決算報告を大学公式ウェブサイトで公開しています。事業活動収入は前年度より146百万円増加の8,402百万円、事業活動支出は前年度より281百万円増加の7,785百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は前年度より134百万円減少の617百万円となりました。基本金組入額は前年度より274百万円増加の967百万円となり、当年度収支差額は△349百万円となりました。前年度繰越収支差額が△3,638百万円の為、基本金取崩額12百万円を勘案した翌年度繰越収支差額は△3,975百万円となりました。

教育活動収支

教育活動収入は、学生生徒等納付金が63百万円増加したことや、経常費等補助金が38百万円増加したこと、前年度比155百万円増加の8,308百万円となりました。一方、教育活動支出は、人件費が対前年度比76百万円、教育研究経費が177百万円増加したことから、前年度比280百万円増加の7,750百万円となりました。その結果、教育活動収支差額は前年度比125百万円減少の558百万円となりました。

教育活動外収支差額は、前年比11百万円減少の28百万円となりました。特別収支差額は、前年度比1百万円増加の30百万円となりました。

創立二十五周年 江戸川学園物語 第四回

「小さき足跡」は、当時の江戸川学園理事長であった木内きぬ先生が原稿を執筆し、江戸川女子高等学校の先生と生徒が編集した冊子です。十二号は、創立二十五周年を記念して、江戸川学園物語をまとめられました。原文のまま連載します。

この学園もその例にもれず、十一名の問題の生徒を数えるに至った。そのために、夜を日について職員会が開かれた。不良の子こそ善導すべきだ、それが教育者としての任務であると主張する一派と、いやたつた十一名の為に全生徒が悪影響をうけ、ひいては学校の名誉を傷つける結果になる。濁流と清流は全じ流れにおくべきではない。という一派に分れて各々一歩も譲らない。遂に校長は涙を吞んで十一名に對して断を下した。毎年卒業式には答辞半分まで読んだ頃になると、卒業生の泣き声が場内に満つるのだが、昭和二十四年度の卒業式当日は逆に校長の方から声を上げて泣き出してしまった。

『此の晴れの席上に列すべかりし十一名の姿の見えない事は全く自分の責任であつて、何とも申訳ない。』と言われる。私は木内との結婚生活三十三年の永きに及んだが、彼が声を上げて泣いたのを見たのは此の時が最初でそして最後であつた。

『どうぞ不良の群にだけは入らないで呉れよ』と血涙をしばつて叫んだあの時の声を、学園の生徒は、卒業生は今も心に通じていなくてはならない。学問を学ぶだけが学校ではない、よい人柄をも身につける。それが此の学校の伝統である筈。

時世の波

終戦後マッカーサー政策は日本民族の上に一大改革を断行して、その真髓を覆して行つた。その最も大きなもの、一つに学制改革がある。つまり六・三・三制の施行である。義務教育は小学校六年までのが、中学三年卒業まで延長を見た事は、敗戦のどん底に喘ぐ日本民族に取つて、どんなに苦しい負担であつたか。その施設のために自殺する村長が出るなど世の中はてんやわんやの中に、全国津々浦々にまで、のみの音が響き渡つて行つた。

その完成への途上小学校に間借りする中学校、私立学校に委託された中学生などが、現れて兎もあれ、教育の場合は中等学校五年制が三年になり、高等学校三年制がしかれ、大学六ヶ年が四ヶ年に小間切れにされてしまった。

今日十年の歳月の経過はそれが当り前のように世人に思わせるようになったが、私は中等学校五年制に限りない郷愁を感じる。

人間完成に最も大切な時期に、中学から高等学校へと教育の場が變つて行かねばならない事は、感じ易い青少年の心にどう響いて行くか太陽族が多くなりアプレが多くなる現代世相もこの制度に起因した点多々あるように思われて仕方ない。

本学園でもお多分に洩れず委託生を三クラス江戸川区長からお引受けした。

本学園を目指して入つて来たのではなくて、制度に支配されて来たのだから、心から馴染まない、なじまないまゝ、に三年が過ぎて、社会に出て行つてしまふ。

今途中で出会つても挨拶もしないで行き過ぎるのはこの頃の委託生に多くて、その都度齒の抜けたような寂しさを感じる。

教育制度の改革は私立学校に大きな皺寄せとなり、一大暴風雨となつて襲つて来た。世上住むに家なく三疊一間に幾家族かの同居があるかと思うと、私立学校はがらあきとなり、一方目立つて立派な校舎を持つて屈る学校はアメリカ駐留軍の接收の憂目を見る有様であつた。

終戦直後の食糧不足は頂点に達した。学園では江戸川河畔に三千坪の農耕地を持つていたので生徒も職員も父兄も一緒になつて、せつせと学業の合間に農耕に精出した。先づ食わねばならない、生きて行くためには………木内は人に頭を下げる事が大嫌いであつたので、決して食料の買い出しにはゆかない、自ら先頭に立つて素人百性に任じていた。私達一家で麦二表、さつま芋十貫、馬鈴薯廿貫の収穫を上げたのだから、学園全体の収穫は大したものであつた。何処からこの力が湧いて来たか不思議である。然しこうした変則的な生活は悲劇をはらんでいた事はいうまでもない。昭和二十三年十月病魔は遂に木内の再起をこばむに至つた。

学制改革の餘波はいよいよ深刻となり、生徒は半減する、主柱が倒れて職員は座に落ち着かない。校舎は朽ちて来てまるで釣橋を渡るようだ。あらゆる悪條件が一時に押し寄せて、学園の危機はこゝに再び訪れたのである。命をかけた学園の行方はどうなることか、生徒達の見舞状の山積する中であつて、ひたすらその将来を思う病床に於ける校長の心情察するにあまりあるものがあつた。

占者の門を叩けり道づれの倒れて時の久しくなれば

亡き後をとぎれとぎれに語り居てふつと話の絶えて眼の合う

わびしさの極みに堪えて今日も又病み臥す人の肌ふきてやる

愛憎を乗り越えて今はたゞ静夫を看とれる室に陽の射し

たゞちつとみつめ居る眼にふと合いて心よみとれて戸迷う我が

保護者会の実施

9月から11月にかけて学科毎に保護者会を実施しました。人間心理学科は、学科長による学科紹介動画をオンライン配信し、質問は個別に受け付けました。現代社会学科は全体会をリアルタイム配信し、個別に相談を受け付けました。経営社会学科はご希望の方に個別面談を実施しました。マス・コミュニケーション学科は対面で全体会を実施後、個別面談を行いました。情報文化学科は対面・オンラインで全体会を実施後、ゼミに分かれて相談会を行いました。こどもコミュニケーション学科は、全体会をリアルタイム配信しました。多くの保護者の方にご参加いただき、とても有意義な会になりました。



情報文化学科の全体会の様子

学生食堂 100 円モーニングメニュー提供再開

新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた学生食堂のモーニングメニューの提供が、10月17日（月）から再開しました。学生の食生活を応援するため、大学からの補助で100円という値段設定にして実施しています。提供時間は午前8時から10時まで。スクランブルエッグ and ソーセージセット、トースト and サラダセット、焼き魚朝食の3種類があり、どのセットもサラダや小鉢付きです。



キッチンカー再開

今年度はキッチンカーの出店も再開しました。日替わりで12のキッチンカーが登場します。ハンバーガーやカレー、おにぎり、豚丼、ステーキ弁当などのお料理系から、クレープなどのスイーツ系まで様々。ぜひご利用ください。



「ALADDIN」トルコ料理を提供



「MAE FOOD TRUCK」タコライスや揚げたこ焼き等提供



「SHANTI」本格インド料理を提供



「モバイルキッチン」ポーク焼肉弁当や牛ステーキ弁当等提供

学生組織「エド・アド」によるイベント

マス・コミュニケーション学科の学生で組織する仮想広告代理店「エド・アド」が、今年度再開した対面の学生活動を盛り上げたいと、7月は七夕、10月はハロウィン、12月はクリスマスにちなんだイベントを企画しました。



七夕の願いごとを書いて飾る笹パネルを設置



「おやつ大戦争～ナンバーワンお菓子を決めよう!～」と題したパネルを設置

◎編集後記

現在の千葉県北西部には江戸幕府が軍馬育成のために設置した放牧場「小金牧」があったそうです。小金牧は5つの牧場の総称で、本学周辺には上野牧と高田台牧があり、成願寺のあたりに馬が逃げ出さないよう作られた野馬土手の跡が見られます。本学の中庭をリニューアルした際、サブグラウンド周辺に野馬土手をモチーフにこんもりした土手を作りました。学園祭ではサブグラウンドに設置された野外ステージでお笑いライブを楽しむ方々が土手に座って観覧していました。なんともいえないほのぼのとした光景で、3年ぶりに対面で開催できた喜びを噛み締めました。

江戸川大学学報

2023年2月号 第51号

Vol.21 No.2 令和5年2月24日発行

発行 江戸川大学 事務局

〒270-0198 千葉県流山市駒木 474

TEL.04-7152-0661（代表）